

ふるさとと探訪

(7)

の寺院の中では古い寺だった。

しかし、明治時代の廃仏毀釈(きしやく)政策が影響してか、廃寺になった。

神仏混淆(こうごう)の時代、神社に付属して置かれた寺(神宮寺)があった。今も市内に残る神宮寺と伝わるものとして、中筋町の島万神社、七百石町の岩王寺、別所町の熊野神社と願成寺などがある。

陸寄町の鳥垣地区に坂尾呂神社が建立されているが、そこから南へ五百ほど離れた場所にもかつて、神宮寺として綾部唯一の天台宗寺院だった長楽寺が建てられていた。

陸寄町の廃寺「長楽寺」

綾部唯一の天台宗寺院

廃仏毀釈政策の影響が

明治時代に廃れる

た。

長楽寺は平安時代初期の

滋賀県大津市にある天台宗

のかがわりを示す板銘文が

残る。板は長さ百四、幅

が営まれたことが記してあ

り、神仏の分け隔てなく信

仁寿年間(八五一〜八五三)に智澄大師(円珍)が

創建したと伝えられ、綾部

者の説が有力だ。

十八年に当時の鳥垣区長が

坂尾呂神社には長楽寺と

同寺は天台宗の総本山である滋賀県大津市の園城寺から派遣された高僧が住職を務めていたらしい。天明から天保年間にかけての一七八三〜一八三五年に同寺の住職だった五人の



長楽寺跡地に残る法華千部塔を紹介する熊内さん(陸寄町で)

高僧の墓石は、今も寺跡地の裏山のふもとに残っている。由緒正しい寺であったのかもしれない。

史跡としてはこのほか、同寺跡地の入り口に高さ約一・四で自然石の法華千部塔もある。同寺の寺宝もいくつかあり、この土地に長楽寺建設の命を下したという花山天皇夫妻の木像が、寺跡から少し離れた場所に建つほくらに安置されている。奈良時代の高僧・行基の作とも伝わる阿弥陀如来像は、廃寺になった後、舞鶴市の天台寺に移された。